

# 児童発達支援自己評価表

## 事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6 年 3 月29 日

事業所名 そら

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		ゆったりとした訓練室以外に、静養室やからだ動きのための部屋や庭もある。	
	2	職員の配置数は適切であるか	○		個別に絵本を読むなど丁寧な関わりができるほど基準以上の配置で適切。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		学習室、自由遊びの部屋、訓練室。室内のバリアフリー化は勿論、玄関スロープへの改修も行った。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		掃除、消毒、換気に務め清潔である。静と動の活動を保障するため、広い庭でかけっこしたり水遊びができるよう配慮。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		毎日の打ち合わせやスタッフ会議で方向性を検討し、そのための改善点を明確にするため意見を出し合っている。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		意向に基づいた改善計画を心がけてきた。小規模事業所の特徴を活かして少人数の意見交換の場を設けた。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		公開しているが、もっと内容を身近に伝えるため各家庭に配布もしている。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		次年度には外部評価の実施を検討している。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		専門性を持ったスタッフが多いので、内部研修を常に行っている。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		アセスメントに基づき、タイムリーに課題を検討して客観性を失わぬよう内部討議にかけている。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		新版K式発達検査に基づく内容や絵画言葉発達検査を取り入れている。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		発達をふまえた本人支援及び家族さんへの支援等、具体的な内容で支援を設定している。根拠としては本人さん理解に基づく生活全般を見通す内容である。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		定期的にチェックを行っている。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		担当者間で相談の時間を持っている。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		日々の生活指導を中心に、個別訓練、運動、見立てつくり遊びの保障など組み込みバランスをとっている。	
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		担当者間で、子ども理解に基づく情報を共有して必要な支援計画を作成している。		

	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		日々の支援開始前に、前回の療育上の問題点を協議し、改善案を出し合いながら、その日の支援内容を確認している。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		支援が適切であったか振り返り、改善すべき課題を見つけ記録し、共有している。家庭でのエピソードを把握している。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		記録簿には支援の在り方に対し子どもの反応を逐一記載。支援の根拠を明確化すると共に改善点は即実行している。	
関係機関や保護者との連携	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		モニタリングでは、保護者様のニーズと子どものニーズをすりあわせ、必要な支援を判断しながら見直しをしている。	
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達支援管理責任者が参画。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○			
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	該当せず			
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	該当せず			
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		担当者間で情報共有の場を持っている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		移行先に個別計画書などを提出して子どもさん理解を得るため積極的に情報共有の場を持っている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		○		感染防止上、機会を持たなかったが、積極的に交流の申し入れを行っていきたい。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		定期的に参加している。	
保護者への説明	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎時やラインを活用して伝え合っている。事業所での対応について理解が得られるよう取組んでいる。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っている	○		プログラム化はしていないがタイムリーにペアレントトレーニングを提供している。	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		具体的に例を挙げて説明するよう心がけている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		支援内容の説明はよりわかりやすく具体化した上で計画の同意を得ている。	

責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		家庭訪問や、不定期な電話相談も取り入れて適切に支援を行っている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		できる範囲の小規模な会を催す。	
非常時等の対応	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		日頃の相談などラインを活用してタイムリーに対応している。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		利用表に周知事項を盛り込んだり、季節ごとに、行事を含めて案内を配布している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		内部で注意の体制をとっている。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		適切な配慮に心がけている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		感染防止上、取り組みなかったが今後は地域に出向いての交流を考えている。
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○			保護者を含めた訓練の機会を検討していきたい。例として避難先での引き取り訓練など。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		定期的な訓練の他、普段の療育中にヘルメットをかぶる等もしている。	
43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	○		確認できる範囲で行っています。		
44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○				
45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		不定期ではあるが、ヒヤリハット箱から読み合わせて共有している。		
46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		何を持って虐待とするか、日頃の言動についても互いにチェックしあっている。		
47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		やむを得ず身体拘束を行う時の基準や配慮すべき点を明文化し説明するが該当する子どもさんはいない。		